

「食道癌の外科」

久留米大学教授 掛川 暉夫
久留米大学講師 藤田 博正 著
久留米大学講師 山名 秀明

虎の門病院副院長
秋 山 洋

本書は食道外科の権威として知られる久留米大学第1外科・掛川暉夫教授が、教室の優れた食道班の方々とともに上梓されたものである。

掛川教授は慶応義塾大学外科学教室在任以来、今日に至るまで、終始一貫して食道癌の臨床的、基礎的研究に取り組んでこられたが、本書は特に久留米大学における卓越した業績を結実させたものである。

学会その他の場での数多い彼の司会や発言ぶりからもわかるように、この分野において掛川教授は常にリーダーシップを保ってきた。その治療成績は抜群である。

本書には食道癌の外科について、リンパ節郭清、術後合併症、食道再建、術前後の合併切除等を最近の問題として挙げているが、それぞれに対して明快な解答を与えつつ詳述している。すなわち、密度の濃い、質の高い郭清、術後の病態・機能を考慮した切除再建術、個々の癌腫の生

物学的特性と担癌生体の特徴に適した効率の良い治療方針を骨子としている。

本書の内容は、実に微に入り細を穿ち、しかも要領よくまとめられている。食道癌の外科に関する最新の、しかも真実が述べられた百科事典といってよい。治療に直結した病態に関する記述から始まって、最近の外科的診断、術前チェック、局所解剖はもとより、すべての手術術式が網羅されている。術式の説明は実に丁寧で、アプローチから術中の手順を追って克明に解説されている。この親切な解説には掛川式の手術の真髓が盛り込まれ、かつ普通には聞けない微妙なコツが多数盛り込まれている。つまり、こうしてはいけないという要点まで記載してあるので、読者にとっては誠に貴重な教訓の宝庫と言える。これに加えて、各所に挿入された“Coffee Break”により、解説の裏のウラまで教示して

くれ、至れり尽くせりの感がある。

ふつう、手術というものは文字やイラストのみの説明ではなかなかそのまま再現できないものであるが、本書では、術式に先立って著者が愛用している手術器械をすべて紹介してくれているのも大きな特色の1つであり、本書を読んだ者が実際に掛川流の手術をできるように念入りな気配りが窺われる。

掛川教授が食道外科学の泰斗といわれる所以は、手術のみならず、術前管理、術中・術後の病態生理およびその管理に永年の優れた研究業績があることである。本書においても「術前に知っておくべきこと」と、「術中・術後管理と follow-up」の章において、理論と共に実際に即してすぐに役立つ記述により明快に述べられている。

全体を通じての記述方法は、明瞭な項目の配列と活字の使い方極めて見やすく、理解しやすく、楽しみながら時を忘れて読み進むことができる。

本書は、掛川教授が食道癌の外科について集大成した珠玉の書として、食道外科専門医にはもちろん、消化器および一般外科医、内科医、更には学生諸君にも是非推奨したい好著である。

● B5判 288頁 図197 写真82
原色図30 1991 定価14,420円
(税込) 円300